

「美しく」「豊かな」言葉、実感する「魂のすばらしさ」

= 第4回日本語大賞の表彰式—東書ホールで =

日本語検定委員会主催の日本語の美しさや言葉のもたらす力を見つめ直す「日本語大賞」の第4回表彰式が2月24日午後、文部科学大臣賞の受賞者4人らが出席して東京・北区の東書ホール（東京書籍本社）で行われました。文部科学大臣賞はこれまでの最優秀賞に替わって今回初めて授与されることになったものです。

第4回のテーマは「人と人をつなぐ日本語」。海外からの204点を含め、小学生の部223点、中学生の部395点、高校生の部446点、一般の部163点と、計1227点のエッセー・作文の応募がありました。第1次、第2次の審査を経て、審査委員12人による最終審査が行われ、一般の部（文部科学大臣賞1点、優秀賞3点、佳作6点）、高校生の部（文部科学大臣賞1点、優秀賞4点、佳作5点）、中学生の部（文部科学大臣賞1点、優秀賞3点、佳作6点）、小学生の部（文部科学大臣賞1点、優秀賞3点、佳作6点）の4部門の各賞が決まりました。



この日の表彰式には▽小学生の部、千葉県富津市立富津小学校3年、森田悠生さん▽中学生の部、宮城県仙台二華中学校2年、鈴木美紀さん▽高校生の部、宮城県古川学園高等学校1年、佐々木綾子さん▽一般の部、全日本空輸株式会社、白澤健志さん—の文部科学大臣賞受賞者4人が全員出席。プレゼンターの文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課の楠目聖・民間教育事業振興室長から、それぞれに賞状、楯、副賞が授与されました。

表彰式はフリーアナウンサーで審査委員の梶原しげるさんの司会で進
行しました。主催者を代表して梶田叡一理事長（前環太平洋大学学長）
があいさつ。ANA ラーニング社顧問で審査委員の山内純子さんが、文部
科学大臣賞受賞作品について講評。「小学生とは思えない表現力」「震
災直後の厳しい現実と、作者家族のもうひとつの現実を、スーパーを舞
台に赤裸々に描写」「日本人魂のすばらしさを実感」「映画のワンシー
ンを観ているような情景が目についた」などとコメントしました。



このあと、岩手県まで一人旅する不安な様子を素直に表現し、車内で出会ったおじさんとのやりとりを通
じ、その人物像を見事に描き、また、震災で被災した状況を淡々と描くことで、逆にリアリティを感じさせ
た、森田さんの「きっと、だいじょうぶ」▽震災直後のスーパーでの出来事をしっかり観察、被災者の大変
さが感じ取れる作品で、被災者から掛けられた言葉がいかにも温かいものであったか、救われたかが伝わっ
てくる、鈴木さんの「『お先にどうぞ』が結ぶ心と心」▽震災直後、作者は多くの「どうぞ」という言葉に出
会い、その言葉に込められた「思いやり」を強く感じ、たくさんの具体的な「どうぞ」を描くことで当時の
様子を浮かび上がらせた、佐々木さんの「『どうぞ』」▽結婚を決意するきっかけになった「いい子だよ」
という亡くなった義父の言葉に、いかにも多くの意味と人生がつまっていたかを想い、父親の娘に対するあふ
れんばかりの愛情、そして、その夫となる作者に対する温かい気持ちが感じられた、白澤さんの「義父の一
言」—の各作品が順に朗読されました。受賞者は梶原さんのインタビューを受け、はにかみながらも受賞の
喜びや作品に込めた気持ちなどを語りました。

続いて、来賓として出席した文部科学省の楠目・民間教育事業振興室長が「言葉の持つ力を実感された工
ピソードが生き生きとつづられていた」と祝辞。受賞者を代表して、白澤さんは「日本語は美しく豊かな言
葉だ。日本人にとってすばらしいのは母国語であるからだと思う。母国語を大切に思うことで、一人ひとり
が心を通わすことができれば平和に過ごすことができる」などとあいさつ。最後に時事通信社社長の西澤豊
理事長が閉会の辞を述べ、表彰式は約1時間で終了しました。

（文責：時事通信社 小山栄蔵）

